

第4回富山駅周辺整備事業推進協議会 議事録

日 時：平成20年3月14日（金） 14：00～

場 所：富山県民会館304会議室

○次 第

- 1 開 会
- 2 議 事
 - 1) 「第3回推進協議会の議事概要」〔資料－1〕
 - 2) 「富山駅周辺街区の土地利用計画検討」〔資料－2〕
 - 3) 「富山駅交通広場の計画検討」〔資料－3〕
- 3 その他
- 4 閉 会

【出席委員】

黒川委員、森委員、吉田委員（藤木委員の代理）、井波委員（埴生委員の代理）、山口委員（多田委員の代理）、金山委員、土肥委員、川岸委員、小室委員（犬島委員の代理）、中尾委員、白倉委員、櫻田委員、徳道委員、開口委員、笠原委員

○議 事

1) 「第3回推進協議会の議事概要」

【 事 務 局 】（資料説明 資料－1）

【 座 長 】 前回の議論を受けて今回の資料－2、資料－3が準備されている。議事録について修正すべき点があれば後で確認したい。

2) 「富山駅周辺街区の土地利用計画検討」

3) 「富山駅交通広場の計画検討」

【 事 務 局 】（資料説明 資料－2、資料－3）

【 座 長 】 資料－2の中で、高さ制限について「スカイラインの連続性に配慮する」というのはどんな制限か。

【 事 務 局 】 景観条例に基づく届出・勧告による制限として、景観まちづくり推進区域を設定しようとしている。具体的な高さの数値を設定する場合は、地区計画で規制することになると考える。

【 座 長 】 ヨーロッパの街並みで美しいと感じるのは、1階や2階の高さが揃っているからである。そういう工夫を日本でできないのか。建築協定で規制誘導することも考えられる。

【 委 員 】 事業が具体化していくとコントロールが難しくなるので、早めに規制をかけるべき。金沢や他都市でも駅前を整備しているが、駅前広場に面する建物のコントロールはあまりできていない。低層階の部分は広場と一体的にパブリックなスペースとして重要な役割を果たすと考えられる。そういう試みを検討してほしい。

【 座 長 】 低炭素社会の形成が重要視されており、業務・商業床についても省エネ型のもの

としていく必要がある。

壁面の位置の制限も大事であるが、東京の大規模建築の地下には建築設備等がぎっしりと詰まっている状況であり、地下空間についても余裕を確保する必要がある。土地利用の方針に記載することを検討してほしい。

【事務局】環境にやさしい、環境負荷低減に配慮した駅周辺整備を進めていくということの方針の中で示したい。

【委員】資料-2のP1にある富山駅周辺整備の基本方針は、オーソライズされたものか。

【事務局】前身の協議会で決められたコンセプトをもとに検討したものであり、今日まさに提案したものである。

【委員】資料-2のP2に「不足」という言葉が使われているが、ニーズに対して量的に不足しているということなのか、単に集積が進んでいないという意味なのかははっきりしていない。

資料-3のP1では、二つの案について評価しているが、利用者の視点での評価が整理されていない。P8に動線が示されているが、動線のわかりやすさなどについても評価すべきではないか。

【事務局】今日の資料には無いが、これまでにアンケート結果におけるニーズとして商業系の土地利用が望まれていることや、他の県庁所在都市や新幹線駅周辺に比べて商業の集積度が低い実態を示しており、このことから「不足」という言葉を使用している。次回は全体がわかるように構成する。

広場については、利用者の観点が最も重要。その部分が抜け落ちているので、しっかりと整理したい。結論から言うと、両案で利用者の利便性や動線についてはそれほど大きな差はないと考えられる。

【委員】資料-3のP9において、観光案内施設を高架下に入れることを提案しているが、現在CICの中にある観光物産施設を移すという前提なのか、両方整備することなのか。CICの中の施設を生かすのであれば、駅からCICに渡る横断歩道を広くするなど多少影響があると思う。

【事務局】CIC内の施設は駅から離れていて5階まで上がる必要があり、やや場所が悪いと感じている。市で正式に決めたわけではないが、在来線や新幹線の高架下を活用できるのであれば、観光案内や物産PR等の施設等のCIC内の機能について一部高架下等に移すことができれば良いという考えで記載している。

【委員】南側にはホテル等もあるので、全体のコンパクト化も踏まえて検討してほしい。資料-1のP1の中で「新幹線開業によりプラスにすることが大切」とあるが、前は「足りないから埋める」というようなマイナスをプラスマイナスゼロもしくはプラスにするという資料構成であったが、単に増やすのではなく、もっと戦略的に検討する必要があるという意味で発言した。議事録の訂正をお願いしたい。

【委員】事業者にとってまだ駅周辺地区に対するニーズが読みきれていない段階ではないかと感じている。土地利用の議論についてはもう少し慎重に進める必要がある。南西街区の利用については関心が高いが、景観上も大きな問題であると考えている。屋外広告物については規制が比較的緩いという状況ではあるものの、見苦しいというほどでもないと感じている。事業者の方々には、見直しについては総論賛

成だと思いが十分に意見を聞く必要がある。

これまで、連立事業により南北自由通路をつくって、中心商業地区とつなぐということが言われてきているが、駅周辺と中心商業地区との関係が今ひとつよく見えない。この協議会の主旨とは違うかもしれないが、しっかりと検討しておく必要があると考える。

【事務局】南西街区の使い方はまったく白紙の状態であるが、富山の玄関口であり色々な機能が集積することが望ましい。

景観に関する規制については、個人の権利の制限でもあり、厳しいほど良いというものではない。一定程度の社会経済活動が活発に行われるとともに一定の賑わいがあることも大事なので、今の規制をどの程度見直していけばよいのかについて地域の方々と他都市の駅周辺の事例等を勉強しながら検討していきたい。

中心部とのつながりについては、駅周辺と中心部の2つのコアができることになるので、それらをしっかりとつなぐことが重要である。金沢では、駅周辺開発に伴って、香林坊や片町等の中心部の商店街が駅とつなぐ無料バスを走らせている。駅周辺は立地上有利であり、新幹線の開業効果が中心部にも伝わるように。富山では路面電車の環状化を急いでおり、駅から中心部までは路面電車を下駄代わりに使ってもらいたいと考えている。また、城址大通りについても人が徒歩でも中心部に流れるようきれいに整備していきたいと思う。

【委員】他の駅とは違った富山らしさを打ち出してほしい。また、全体的な都市の中でみた駅の機能を整理すべきである。

【事務局】議会でも、駅舎や駅周辺における富山らしさの必要性について色々と意見がある。駅北のブルーバールから非常に広い歩行空間が駅南までつながり、広場の中を路面電車が走るということで、他の駅では見られない光景が広がることになる。駅舎については、別途、デザイン検討委員会で議論されているが、新幹線駅と在来線の高架駅がほぼ同時にできるというのは全国で初めてであり、富山らしい明るく開放的な空間となるよう検討していきたい。また、全体的な都市の中でみた駅の機能については、今後整理していきたい。

【座長】富山に来る外国人はどれくらいいるのか。

【委員】具体的な数値は把握していない。

【座長】台湾などから来る外国人は金持ちが多く、1泊数万円するところに宿泊している。東京でもようやく五ツ星のホテルが出てきたが、これらのホテルでは1泊20万円以上するところもあり、外国人観光客はこれらのホテルを目当てに来ている。外国人は自然や歴史など良いものがあるところに行きたいと思っている。立山などがある富山にも1泊5万円以上するようなホテルがあっても良いかもしれない。

【委員】現在、宿泊客を増やす取り組みで精一杯の状況であり、富山をどのようにPRしていくべきかを考えている。

【委員】そもそも富山をどういうまちにしていくのか。もっと外国人を呼び寄せるのかなど、検討の前提となる部分が今回の資料で整理されていない。「グレードの高い宿泊特化型ホテル」という言葉が出てきているが、単に不足しているからではなく、国際的な流れの中、富山もこの流れに追いついていくためにはそのようなホテル

が必要であるという流れで整理されていけば、もっと理解しやすい。そもそも富山市・富山県として戦略的にどのような方向を目指すのかを整理してほしい。

- 【 委 員 】資料－３のP15に路面電車の動線が描かれているが、黄緑の線はわかりにくい。できるだけシンプルな方が歩行者にとってもわかりやすいと思う。
- 【 事 務 局 】路面電車の南北接続は今から約9年後になる。今回の図に関しては市の想定で描いており、将来的にどのような系統になるのか不明確な状況で検討している。横断箇所についても南北あわせて5箇所を想定しているが、警察と十分に協議していない状況であり、動線だけをみて判断したものである。これらの横断箇所や横断方法については、今後、警察と協議しながら検討していきたい。指摘のとおりシンプルでわかりやすいものにしていきたいと考える。
- 【 委 員 】路面電車の電停部分の動線については、多様な運行形態に対応できる設備長（様々な設備を設置する区間）を確認しておけば色々な線が描けると思う。
- 【 委 員 】資料－３のP1で、C I C前に駅前広場とつなぐ横断歩道が新たに描かれているが、現在、県庁線から「駅前東」と書いてある交差点を左折する車が非常に多い状況である。新たに横断歩道を設けると左折車が曲がれない状況になるため、何とか解消してほしい。地下道もあるのであわせて検討してほしい。横断歩道を設ける場合、「駅前中央」と書かれた交差点の右側であれば滞留長がある程度確保できるので大丈夫だと思う。
- 路面電車について、駅前広場で自由に横断させるのは非常に危険と感じている。駅という特別な場所であり、急いでいる人は信号等を守らないことも想定され、安全対策について今後考えていきたい。
- 【 委 員 】前身の協議会でもC I C前の横断歩道について話が出た。交通安全上あるいは交通行政上技術的に難しいのはわかるが、地元として、駅から中心商店街等への動線を確保するために、ぜひとも今回の図面の位置に横断歩道を設けてほしい。
- 【 委 員 】バスとタクシーを集約するということがやむを得ないと思うが、どういう形で安全性を担保していくのか、関係者間の協議が必要と考える。ショットガン方式とする場合、どこにタクシープールを設けるのかが問題である。お客様を待たせることにならないか心配している。
- 【 委 員 】バスとタクシーは分離してほしいが、集約する場合には、バスとタクシーがバッティングしないよう、スムーズな運行を念頭に、バス協会、タクシー協会、富山市、県警の4者で協議していきたい。
- 【 委 員 】（※欠席のため、事前にいただいたコメントを事務局が代読）富山駅前広場の整備において、交通機能をコンパクトに集約し、できるだけ「賑わいの空間」をとるというコンセプトは非常に大切なことであり、「バス・タクシーの集約案」に基づくレイアウトを基本として、今後設計を進められるのがよいと考える。
- 【 委 員 】土地利用について、ゾーニング等の大きな考え方は良い。商業機能についてはマーケットを整理し、立体的に検討していくべきと考える。公共施設については、公共交通網やパークアンドライド等の施策も踏まえて検討していく必要がある。立山の雪を見に来る外国人が非常に多いと聞いているので、このような人達に市内でも観光や宿泊をしてもらえるよう配慮が必要である。観光客は広域的に移動

することが多く、そのことを踏まえて宿泊施設の形態等を具体的に検討していくことが望まれる。

交通広場については、バスとタクシーの集約案の方が圧倒的に良いと思う。景観の規制誘導はぜひやっていただきたい。

屋外広告物については、看板の数を制限し端正な駅前とすることで、しっかりとしたキャラクターを発揮しながら賑わいを生むという考え方もある。富山らしい、他の都市にはない駅空間をつくっていくべきである。駅前広場空間のつくり方として、民間所有のものに影響するが、広場の周囲の建物は回廊的なものや駅前広場に面する部分にバルコニー空間を設けるといったデザインコードを検討してもよい。富山駅には駅ビルがないので、周囲の建物がどのように駅前空間に参加するのが重要となる。

駅周辺と中心部の二極化については、金沢駅前にはフォーラスができて、駅と中心部の間を無料バスが走っている。フォーラスは富山や福井からも集客しているが、その人達が駅にとどまらず片町や堅町などの中心部に流すための努力も行われている。広場内の軌道敷については、安全性も重要だが、ヨーロッパなどのように、できるだけ広場空間と一体的・連続的になるよう検討した方が良いと考える。また、広場には高い位置に葉が繁る樹木を配置し、うるおいのある空間とすることが大切である。C I C側にもまとまった緑を。

- 【 委 員 】 交通広場については、バスとタクシーの双方の安全確保が大切であり、バス・タクシーと歩行者との安全確保も重要である。集約案の駅前東交差点の左上に描かれた地下道出入口をマリエ側にもってこくことは可能か。
- 【 事 務 局 】 この出入口は無い方が良いと考えている。また、地下道出入口の配置については検討するが、現在の利用形態を考えると、マリエ側に出入口を設けても利用者は少ないと考えられる。
- 【 委 員 】 資料-3のP6にある動線をみると、南側との連絡について書かれていない。駅南側には商業集積があるので、そことのつながりを整理し、既存ストックを大事にしながら全体としての魅力を高めていくことが重要である。また、南側に行く動線をまっすぐ下におろすと、県警の方が言われた横断歩道を駅前中央側にもってこくことも考えられると思うので、そのことも踏まえて検討してほしい。
- 【 事 務 局 】 交通広場については、この協議会とは別に、バス、タクシー、県警等の関係者間で別途に協議していきたい。今後のスケジュールとしては、平成26年度末に新幹線開業を想定すると、平成22年には駅南口広場の整備に着工することになる。それから遡ると、平成20～21年度の2ヵ年で実施設計をやりたいと考えている。現在は基本設計の段階であり、平成20年度の前半には方向性を固めたい。引き続き、関係機関と調整しながら、基本設計部分についてこの協議会でご議論いただきたい。

以上